アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム

汗かくメディア2014

2014.9.13(土)－9.28(日)

受賞作品公開展示

イロプット.
ch・eat

スクリーンにいっぱい並んでいる図形(○△□…)に色をつけていくあそびです。スクリーンの前に立つと自分のいる場所の図形に色がつきます。人がいなくなると徐々に色が消えていったり、他の人がくると色が上書きされたり、色が混ざったり、様々な効果があります。一人でも、友だちや家族とも一緒に、スクリーンの前で動いて、色をいっぱいつけてみてください。「色をつける」という単純な楽しさを感じてください。

ch・eat：
中京大学情報理工学部に所属する二人組。
島下直人、宮田義郎研究室に所属し、パソコンを使ったワークショップの企画運営もしている。
雷田慎久／上芝智裕研究室に所属し、CGアニメーション作品の制作をメインに行っている。

ちび電カメラ
冨田太基 + José Maria Campaña Rojas

参加者が、発電パネル上で体を動かし、ある一定量以上発電されると、カメラにより撮影が行われます。撮影された写真は、大型のスクリーンにリアルタイムで投影されます。発電量によって、画像のエフェクト種類や再生時間の長さが変化していきます。普段意識して写す写真にはない、ふとした表情が切りとられています。

冨田 太基：
1990年生まれ、埼玉県出身
情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 在学中。

José Maria Campaña Rojas：
1989年生まれ、メキシコ出身
情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 在学中
http://chemisax.com.

まっくらプール
カタハラ

暗やみの世界を冒険してみよう!
暗い空間にゴムボールやスポンジ、新聞紙等の様々な素材で出来たプールがあり、その中を動きまわります。プールの中にはセンサーがたくさん設置されており、ヒトの動きに反応して色んな音(水中にいるような泡の音、砂を踏んでいるような音、猫の鳴き声等)がします。想像力を膨らませて自由に暗やみの世界を楽しんでみてください。

カタハラ：
ものづくりと楽しいことが好きな名市大の2人組。
子ども心を大切に、時間を忘れて夢中になれるようなモノ・コトを生み出していきたいと頑張っています。

関連プログラムのお知らせ ※9月21日は関連プログラムのため、「汗かくメディア受賞作品公開展示」一般公開は12:30からとなります。

ACCC(あいち子どもクリエイティブクラブ) 第3回

汗かくメディアツアー

受賞作家から直接話を聞いたり、あそびを一緒に体験したり、交流しながら『汗かくメディア受賞作品公開展示』を体験する特別なツアーです。

日時：2014.9.21(日) 10:30～12:30
対象：小学生から中学生　定員：15名程度
(高校生はボランティアとして参加できます)

申込み方法：電話またはメールで、参加者の氏名・学年・性別・郵便番号・住所・電話番号をお知らせください。
電話 0561-63-1110　メールアドレス accc@acc-aichi.org

○詳しくは、館内の当日案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。

愛知県児童総合センター

愛知県児童総合センターは「あそび」をテーマにした県立大型児童館です。1996年の開館以来、子どもと大人がともに、心と身体をフルに活用して遊ぶことで、新しい気づきが実感できる時間と空間を提供しています。また、遊具や遊びのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワークづくり、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っています。

〒480-1342
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
TEL　0561-63-1110
E-mail　info@acc-aichi.org
http://www.acc-aichi.org/

開館時間＝9:00－17:00
入場料＝中学生以下無料、その他300円

9月の休館日=1、8、16、22、29日
10月の休館日=6、14、20、27日
11月の休館日=4、10、17、25日

公共交通機関で…　地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」からリニモ「愛・地球博記念公園」駅下車

車で…　東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから足助方面すぐ(愛・地球博記念公園 北駐車場利用)

編集・発行／愛知県児童総合センター(公益財団法人愛知公園協会)

アートと遊びと子どもをつなぐ
メディアプログラム

汗かくメディア2014

受賞作品公開展示

2014.9.13(土)－9.28(日)
愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)
公開時間：10:00－16:00　休館日：9.16(火)、22(月)
入場料：中学生以下無料、その他300円
主催：愛知県児童総合センター
(公益財団法人愛知公園協会)

愛知県児童総合センターは開館以来、来館する子どもたちに常に新鮮な驚きと発見のある遊びを提供するために、様々な「素材」「人」「不思議」と出会い、交流することができるような仕掛けづくりのほか新しい遊具や遊びのプログラムの開発にも取り組んでいます。その一環として、2013年12月20日から2014年2月28日まで『アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2014』と題し、子どもたちをより一層活性化し、新しいコミュニケーションの可能性を広げるメディアに関する遊びの提案を広く全国に公募しました。全国から寄せられた37作品を審査し、3作品が『アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2014・汗かくメディア賞』として選ばれ、このたび受賞作品公開展示として愛知県児童総合センターで発表します。子どもたちだけではなく、大人も一緒になって幅広くたくさんの人々が体験する「新しいあそび」が実現します。

Aichi Children's Center

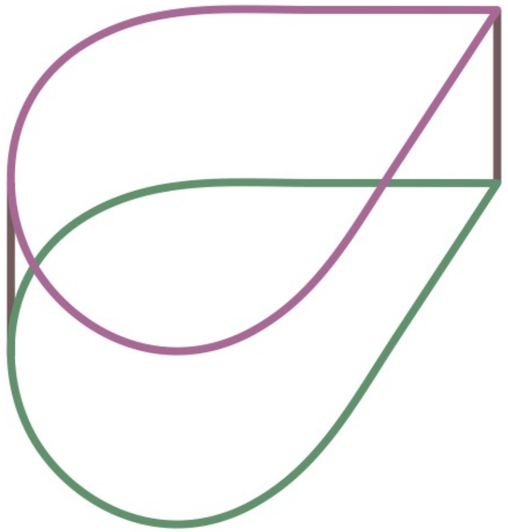
子どもとおとな、ドキドキ発見!

ACC レター

Aichi Children's Center

News Letter　vol. 17
2014 秋

アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム
汗かくメディア 2014
| 受賞作品公開展示 |
イネンレイコウリュウ
汗かくメディア
子育てのおはなし 第17話
ACCののぞき穴
募集とお知らせ



愛知県児童総合センター

私たちは応援します ESD AICHI-NAGOYA

| 特集1 |

イネンレイコウリュウ

愛知県児童総合センター（以下、センター）では、「異年齢交流」を促進する目的もかねて、ボランティアを受け入れています。同年代同士では、もちろん気兼ねなく遊ぶことできますが、そこに年の小さい子や、逆に少し年の上の人がいることで、あそびのなかで、例えば思いやりだったり、新しい可能性だったり、たくさんの気づきが見つかります。

センターでは「ACCC（あいちこどもクリエイティブクラブ）」や「畑プロジェクト」で高校生、大学生、社会人からボランティアを受け入れ、より様々な人が関わる場をつくりだすことで、異年齢交流を推進しています。

現在もボランティアやスタッフとして関わっている、大島丈堯さん、中村夏子さん、松井千紘さんに聞きました。

大島丈堯さん（大学生）

センター（ACC）：ボランティアでいろんな年齢の子と触れ合ってみて、どんなことを感じますか?

大島（O）：同じあそびでも、参加する子の年齢などによって、あそびの雰囲気が変わったり、参加者に大人も加わることによってさらにあそびが楽しくなっていったりすることを感じます。

ACC：大島さんは高校2年生からボランティアをはじめ、いまはセンターのスタッフと、5年以上継続して関わっていますね。

O：センターのあそびのプログラムは自分が体験したことがないあそびばかりで、参加者の人と一緒に参加すると、自分自身もとても楽しむことができています。

ACC：中村さんと松井さんは高校生のときにACCCの「あなをほる」という2日間穴を掘り続けるプログラムに参加されましたね。どんな体験になりましたか?

松井（M）、中村（N）：子どもと一緒になって精一杯身体を動かしました!

M：穴を掘るだけでなく、その過程にある様々な発見や驚きに、目をキラキラさせる子ども達を間近で見ることができとても楽しい時間でした。

N：はじめは「何を目的にやるのだろう?」と思っていました。スタッフの人から「あそびに目的はないよ」「子どもたちと一緒に楽しんでみて」と言われ、あそびに対しての考え方も少し変わった気がします。

中村夏子さん（大学生）　松井千紘さん（大学生）

ACC：おふたりはいま保育を学ばれていますね。センターでの活動がこれから先、どんなふうに役立つでしょうか?

N：今後保育の現場に立った時、ここでのあそびを取り入れていきたいと思っています。センターでの経験をとおして、自分のあそびの概念がとても大きく広がっていると思います。

M：私の夢は保育者になることです。このセンターでの活動は毎回毎回が学びの日々です。活動の度に、私達大人が子どものためにどんなことができるか、何をすべきかを考えさせられます。子どもについて真剣に考える機会を与えてくれるセンターでの経験は私が保育者になったとき、またいずれ子どもを産み母親になるかもしれない立場として必ず生きてくると思います。

| 特集2 |

アートとあそびと子どもをつなぐメディアプログラム

汗かくメディア

センターでは、子どもたちの健全な育成を支援するあそびに、アートを取り入れることで、新鮮な気づきを生むあそびの開発に取り組んできました。その一環として、全国からあそびの提案を公募する『アートとあそびと子どもをつなぐメディアプログラム 汗かくメディア』を実施しています。

これまでの7年間で応募総数263件、『汗かくメディア賞』に選出された22作品の中で、コンピューターを活用した作品は少なくありません。現在も加速をつづけるコンピューター技術の発展は、新しいあそびを生むきっかけとして多くの可能性を持っています。そうした中で、センターでは子どもたちがコンピューターに支配されるのではなく、自由に考え工夫し、柔軟に発展していくあそびを支持しています。

今年も『汗かくメディア賞』に選ばれた3作品がセンターに登場します（9月13日～28日）。どのような新しい発見、体験ができるのかを楽しみに、ぜひご来場ください。

※「汗かくメディア」の詳細はHPでご覧いただけます。

あそび	ゆるやかなルール、自分と他者の関わりの中でお互いを認め受け入れる。自分自身の存在を確かめる。	→	子どもたちの発達を手助け。
アート	多様な視点、考え方の提案。新鮮で驚きのある表現方法の提示。五感を解放する力。	→	情操面の成長を促す。

あそび ＋ アート ＝ 五感を刺激し、多くの気づきを生むあそび

※情操とは…感情や情緒、創造的で個性的な心の働き、道徳的な意識や価値観といった複雑な感情のこと。

2007年受賞作品

山田勝洋＋福山竜助
《tendo mondo》

水と光がつくりだす情景の中で自由に動き回り、情景を豊かに変えるあそびの場。

2008年受賞作品

呂ひろし
《数の顔写真》

撮影した顔写真を8パターンの正方形の組み合わせに置き換え、そのとおりに正方形を並べていく。デジタルの仕組みをアナログで体験する。

2009年受賞作品

二宮諒
《aru》work in progress

さわることのできない「影」にさわる。愛知県児童総合センターのあそびとして常設化（2014年6月現在）。

2010年受賞作品

shogi
《伝音板》

予想外のところから、予想外の音が出る、かわった楽器。

2011年受賞作品

河村るみ
《ビュートレス》

「汗かくメディア」アウトリーチ事業として、他施設でも実施。いつもの風景をなぞることで見えてくる新しい情景。

2012年受賞作品

NODE
《ピカピカトランポリン》

トランポリンで跳ねて生まれる、光とかたちと音の不思議。

2013年受賞作品

椎橋怜奈＋関りん＋MoonWalkers
《光のコンパス、まるの王様、だ～れだ!》

頭にセンサーをとりつけた王冠をかぶり、針と鉛筆の役にかわれて円を描く。様々な丸いものの写真が、描かれた円に沿って歪んであらわれる。

子育てのおはなし

臨床心理士
後藤 かをり

第17話

子育て
―予想を裏切るもの

この間、あるお母さんが言いました。「今までで、いちばん予想と違ったのが子育て。かわいい元気いっぱいの子どもを連れて、ニコニコと散歩している自分を想像していたのに・・・」私もまったく同感です。子育て以上に予想が外れるものを経験したことがありません。

子どもはいつも機嫌がよい訳ではなく、なぜ泣いているのかわからなくてオロオロしていました。「泣き方でわかる」というおばあちゃんたちの言葉が信じられませんでした。やっと少し言葉が通じるようになってからも、もっとも思うように動いてくれず、私自身はニコニコしているやさしいママではなく、いつも子どもを怒っているか急かしているかの不機嫌なママになってしまっていました。そして、眠った子どもにそっと「ごめんね」と言っていました。

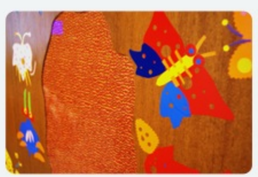
子どもが大きくなってからも、予想を覆すことは続きました。小さい時にとても引っ込み思案で心配していた子どもは、どんな経験をしたのでしょう、たくましく問題を乗り越えて働く大人になりました。

今言えることは、その日その日の自分のしんどさや後悔、そして子どもとのちょっとしたうれしさもできるだけ感じつつ日を重ねようということです。子どもは、自分とだけ生きているわけではありません。子どもに備わったヒトとしてのプログラムを基に、家族を始め、大きくなればなるだけ周りの多くの関係の中で育っていくものだと思います。予想にとらわれないで、その時その時を驚きとともに楽しんでほしいなと思います。

ACCのうごき

こどもの森

とある昼下がりのこどもの森に「こっち～」と囁しそうに迷い込んできたのは2歳のそよ花ちゃん。クロマキーTV（青い色以外が映る不思議なテレビ）の前で飛んだり跳ねたり楽しんでいます。あそびの中で生まれた不思議な虫たちでにぎやかなこの森の中にはじっと見たら飛び出す虫も紛れていたりとしかけもいっぱいです。小さなおうちや大きな卵などあちこちに子どもたちが物語を思い浮かべながら隠れています。ひそひそと楽しげな初夏の午後のこどもの森でした。



募集とお知らせ

第4回 元気スイッチon!! あつまれ! あいちのじどうかん

◎親子のみなさん

「出前じどうかん―あそびばー」

日時：平成26年11月3日（月・祝）
10:30 ～ 16:00
会場：芝生広場（長久手市愛・地球博記念公園内 観覧車前）
参加費：無料

モリコロパークに「出前じどうかん ―あそびばー―」がオープンします。県内に約300館ある児童館のイチオシしているあそびが大集合。身近な材料を使っておもちゃを作ったり、ゲームに参加したり、ステージパフォーマンスを楽しんだりすることができます。さわやかな秋の一日に親子でさまざまなあそびを体験して、楽しい時間をすごしてください。

◎児童館・児童クラブ職員

日時：平成26年10月30日（木）
10:30 ～ 16:45
会場：地球市民交流センター（長久手市愛・地球博記念公園内）
参加費：無料

「ありのままの子どもを感じよう～向き合う、寄り添う、受け止める～」というサブタイトルに合わせた「講演会」と「分科会」、「情報交換会」を開催します。分科会のテーマは「魅力ある児童館」「親支援」「子どもの自己肯定感」「遊びの本質」の4つです。グループディスカッション、ワークショップ形式など様々な形式の分科会を企画中です。また、さまざまな地域で活動している仲間たちと情報交換ができる時間も企画しています。この機会をつかって活動の幅を広く深くしてください。

［問合せ］
元気スイッチon!! あつまれ! あいちのじどうかん実行委員会 事務局
〒480-1342 長久手市茨ヶ廻間乙 愛・地球博記念公園
愛知県児童総合センター内
TEL：0561-63-1110　E-mail：switch-on@acc-aichi.org

※内容は調整中です。最新情報は下記の公式サイトで等でご案内します。
［公式サイト］http://www.acc-aichi.org/2012blog/
検索 元気スイッチon!!